

思いもしなかった市会議長に

能見 勇八郎

1965年3月学部卒業

井川君の方から1月末に11月19日の数学教室同窓会の懇親会でのスピーチの内容を原稿に、という依頼を受けました。そのうち書こうという思いはあったものの、ついに6月末までにという督促も受け、いよいよ筆をとるという非常に申し訳ない仕儀になりました。お許し願いたいと思います。

こう申し上げるのは1月末の時点ですすでにスピーチの内容の記憶が不鮮明であり、それがさらに進んでいるという前提でのレジュメであるというご理解のうえでお読みいただきたいと思うからです。

私は昭和40年に卒業し、文学部哲学科に学士入学し、主としてベルクソンを中心に哲学を学びました。この間、夜間定時制高校の教諭、私大の非常勤講師などを勤め、その後、駿台予備学校で数学の専任講師として勤務しました。

私は高校時代から文学部か理学部かと迷っていました。溝畑先生の所で学び、大学院進学に向け勉強していましたが、試験前日に文学部への転部を決意し、試験を受けませんでした。翌日「君は何を考えているんだ」と先生に叱責されましたが、そのまま数学科を去りました。そして、二十数年の歳月が流れ、一年後に溝畑先生が定年を迎えられるという時点で、同窓生による送別もかねた懇親会があり、私もさそわれ、参加しました。卒業以来一度もお目に掛かっていない先生にお会いすると「君のことは良く覚えている。もう哲学いいでしょう。数学に帰ってはどうか?」と言われたのは大きな驚きでした。予備校で受験数学に深くかかわるのは、その数年後からです。



卒業研究 数学解析

後列右から2人目 溝畑先生 前列右から2人目 筆者, 1965年

しかし、市町村の所謂「平成の大合併」に際し、危機を感じ故郷、兵庫県の生野町の議員に立候補し、この道に入ることになりました。現在はこの合併で誕生した朝来市の議員であり、議長も務めさせていただきました。

そのような経過で、今日は市町村という基礎自治体の議会の現状を少し話させていただきたいと思います。ご存じのように、平成7年に「地方分権一括法」が制定され、平成12年より施行されました。これによって、それまで基礎自治体の業務の多数を占めていました国の機関委任事務が廃止され、国と地方の役割分担が制度上、明確になり、地方自治体の権限が飛躍的に拡大し、特に平成15年以来の「平成の大合併」により自治体の首長の権限が飛躍的に拡大します。ここで議会も独自の改革の必要にせまられます。これに先鞭をつけたのが平成18年5月の北海道栗山町の「議会基本条例」の制定です。このような動きを受け、我が朝来市でも兵庫県で最初に「朝来市議会基本条例」を平成20年に制定し、平成21年4月より施行します。これは議会運営の最高規範であり、市民参加のもと、議会と議員の責務と活動原則の明文化し、議会の活性化を目的としたものです。

主なものとしては、まず議会、特に委員会における討議の重視、つまり議員間の意見交換を行う場をもうけ、議会としての意思の決定に努めます。旧来の議会では、当局による条例等議案の上提と主旨説明、本会議、委員会での議員による質疑があり、その後、直ちに賛成、反対の討論、そして採択が行われていました。つまり、行政に対する議会のチェック機能が議員個々人の意思でバラバラに行われ十分機能しているとは言えませんでした。これに対して、基本条例制定により、議員は質疑の後、当局抜きで、議員だけでその議案について、意見を出しあい、その評価すべき点、問題点等を洗い出すという討議を行い、議会としての意思を決定し、賛否を問うという方法をとります。これにはかなりのエネルギーと時間を要しますが、議会が真の意味で市の意思決定機関として機能することに成ると考えています。

2つ目に市民の参加という観点から「一般議会」の創設があります。議会の本会議、委員会には市民は参加できません。傍聴のみが許されます。参考人招致と言っても、市民は自由な意見陳述はできず、議会からの質疑に答弁するだけです。これに対して「一般会議」は、少し耳なれない言葉ですが、商工会、森林組合、介護保険事業者など、対象となる団体や事業者を絞り、その団体等の代表者数名と議会の委員会の議員、当局の職員も入り、あるテーマを決めて、意見交換を行う会議です。一般市民が議員と同等資格で討議に参加し、自由に意見を述べる場を持つものです。このことにより議会は市民の意見を汲み取り、政策、提言にいかそうとする制度をもうけています。

このほか、議会の調査、審査に必要な様々の資料の要求権の明確化、議会報告会など朝来市議会では多様な取り組みを行っていますが、本日はその一端を述べさせていただき、皆様に地方の議会がどのような活動を行っているか、ご理解いただく一助となれば幸いです、スピーチとさせていただきます。

どうもありがとうございました。